

NPO 法人

第73号

芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。

～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安芦倉 1578
TEL 090-4135-3193 FAX 055-288-2722 HP <http://ashiyasu.com> Mail afc3193@nus.ne.jp

芦安ファンクラブが20歳になりました!

～芦安ファンクラブ創立記念式典・記念登山～

芦安ファンクラブ 望月泰孝

特定非営利活動法人芦安ファンクラブは、平成11年2月に設立（会員21名）され、今年で20周年を迎え、年号が「平成」から「令和」に変わった節目の年に記念事業が行われました。

なお、現在の会員は、顧問2名・正会員50名・賛助会員37名となっています。

○記念式典は、令和元年5月5日に、南アルプス市の「桃源文化会館」で行われ南アルプス市金丸市長を始め来賓・会員51名が参加致しました。

○引き続き同所で記念祝賀会が行われ和やかな雰囲気になりました。

○記念事業として、創立20周年記念誌「南アルプスに寄り添って」を発行し、記念のオリジナルTシャツ（長袖・半袖）を作成しました。

☆記念式典次第

司会 伊井和美

1 開会のことば

副会長 大滝要造

1 黙とう

1 会長あいさつ

会長 清水准一

1 表彰式 ・感謝状贈呈

針葉樹会 様

山梨県山岳連盟 様

富士通アイ・ネットワークシステムズ（株）様

・功労賞贈呈

初代会長 花岡利幸 様

初代副会長 仲田公彦様

前会長 故塩沢久仙様

1 来賓あいさつ

アルプス市長 金丸一元 様

環境省初代南アルプス自然保護官 宮澤泰子 様

1 来賓紹介

1 事業報告

常務理事 伊井和美

1 閉会のことば

副会長 清水毅



☆記念祝賀会次第

司会 竹本清香

オープニング

夜叉神太鼓演奏（夜叉神太鼓保存会）

1 開会のことば 実行委員長

専務理事 望月泰孝

1 乾 杯

日本山岳・スポーツライミング協会

監事 内藤順造 様

1 NPO 法人芦安ファンクラブ 20年の歩み
（プレゼンテーション）

実行委員 鈴木一江

1 スピーチ

初代会長 花岡利幸 様

気象予報士登山教室講師 村山貢司 様

1 DVD 上映

1 万歳三唱

環境省南アルプス自然保護官

小池大二郎 様

以上が芦安ファンクラブ創立20周年記念行事の報告です。

芦安ファンクラブはまだまだ若い二十歳の青年ですが、関わって頂く全ての方々の後押しで、少しずつ一歩ずつ歩いて行こうと決意して、記念式典を終了しました。



○記念登山は、翌6日に夜叉神峠で行われ35名が参加しました。残念ながら日差しは無かったものの、霧の合間に白根三山が浮かび上がり、歓喜の声が相次いで起こりました。



第9回「新緑やまぶき祭」報告

やまぶきツアー（瀬戸千段の滝・芦安大堰堤・大宝寺）

芦安ファンクラブ 西村正人

5月12日（日） 毎年恒例の「芦安新緑やまぶき祭」にて、やまぶきツアーを行いました。

ガイドは芦安ファンクラブの3名にて、今年は、昨年から再整備を行った「瀬戸千段の滝」と「芦安大堰堤」「大宝寺」をご案内しました。

「瀬戸千段の滝」は、「夜叉神のたたり」としても伝えられてきた1200年前の大洪水で出現した滝です。またこの大洪水は、一宮浅間神社の祭「おみゆきさん」の起源や「御勅使川」の名前の由来ともなっています。遊歩道を15分ほど階段や鎖を伝って登りますが、約45mの落差を何段にも折れて流れ落ちる滝と太陽の光に映える美しい新緑は、足の疲れを吹き飛ばす爽快感を感じさせてくれました。

また、瀬戸千段の滝でポケモンをゲットできたという方もいました。

「芦安大堰堤」は、大正5年（1916）から15年（1926）にかけて、内務省直轄事業として日本で最初のコンクリートを使った砂防堰堤で、国の有形登録文化財となっています。重力式とアーチ式の組み合わせで構成された独特の美しい構造をしています。

「大宝寺」には、戦国時代の武田信玄の父（武田信虎）の家臣「名取将監」の墓があります。

そのいわれから「^{とのやしき}殿屋敷」という地名が残されています。

また、奈良時代の孝謙天皇（のち重祚され称徳天皇）が早川町奈良田においてになられたお寺内をしたという^{はくほうおう}白鳳^お廬がいたお寺でもあり、白鳳^お廬と天皇の家来笠摩利の供養塔である^{ほうきょういんとう}宝篋印塔が近くの諏訪神社にあります。



1回およそ1時間、3回のツアーで合計23名の参加を頂き、好天に恵まれ心地よい散策を楽しんで頂けたと感じました。有り難うございました。



「ロッククライミング体験コーナー」

芦安ファンクラブ 入倉利也

5月12日（日）、南アルプス市芦安小学校の校庭にて恒例の「新緑やまぶき祭」が開催され、芦安ファンクラブでは、「ロッククライミング体験コーナー」を行いました。私達、昨年同様ロッククライミング体験コーナーを担当し、子供たちにハーネスとシューズを装着し、クライミングボードを登ってもらいました。

今年はボードが急勾配になった為、小学生限定になりましたが、得意気なポーズで写真を撮ってもらう子、何回も登りに来る子など大人気のコーナーになりました。

今年も多くの子供たちに楽しんで頂きました。安全第一を心掛け、また来年も喜んで頂けるといいなと感じました。



芦安登山教室参加者の声

～第49回鳳凰山～

2日コース(6/8～9)・3日コース(6/8～10)

静岡県島田市 工藤重治さん

1904年の夏 W ウェストンが歩いたであろう杖立峠、苺平を通り南御室小屋で一服。美味しいお茶を頂き、また小屋横の南アルプスの水を補給。夜叉神出発時では晴れ、これは展望に期待が持てるかとも思いきや、ウェストンたちが小さな祠のある木の下で昼食・休憩をとった杖立峠のあたりから雨、そしてここ南御室小屋では真夏の青い空、と天候はころころと変わる。



南御室小屋

しかし以後回復せず雨・霧の中を薬師岳小屋に着。鳳凰の云われ、雷鳥のはなしを食事前に聞く。ウェストンは御室のキャンプ地泊後、地藏岳の先鋒に登る最初の外国人となったが、雲海の中の島にいるようで展望は無しだったとのこと、どのような感想を漏らしたのか知るべくもないが、我々の二日目も雨霧の中の薬師岳・観音岳登頂となった。この後夜叉神までの帰りは霧そして小雨が続く。雷鳥には会えず。

こういう日は意識・無意識に数を数え、南無妙…、色即是空…、師曰く…、山路を上りながらこう考えた、どんな風に…会社のこと、家族のこと、幼き日のこと、友のこと、歌を口ずさみ、即興の替え歌になり…。



芦安中学校の生徒は全校登山で北岳・仙丈ヶ岳・鳳凰を卒業するまでに登る、とガイドの石川さんより聞いた。きっと快晴下の稜線の展望に快哉を叫び、緑の木々が揺れ視界の効かない霧中で足元を見つめながら、また今回のような緑が殊更美しく見える雨中の山行の年があったのだろう、それぞれの年度でそれぞれの思いを刻んで行くんだろう。

若い彼らの心に刻まれた鮮明な思い出とまではいえないが、第49回-A 南アルプス・芦安登山教室もまた忘れることはないと思う。

ガイドの富山さんのにこやかな笑顔、石川さんの年季の入ったストック、薬師岳小屋のスタッフの笑い声、南御室小屋の休憩所の柱、山岳館の柔らかな笑顔のスタッフ、おいしいコーヒー、癒される温泉。



芦安ファンクラブ 石川 剛

天気予報は悪く実行出来るのか心配しながら山岳館に着いた。キャンセルが有り参加者は6名との事。

時折り青空も覗く空模様に期待し、早朝から来て下さった、会長、山岳館、事務局の方々に感謝し夜叉神登山口に向う。準備体操も怠りなく歩き出す。小さな草花に目をやり山の神に頭を下げ夜叉神峠に着く。展望は大落葉松は見えるものの飛来する曇りに阻まれ白根三山の稜線は見えない。先ほど樹名板に有った大ズミの花が乱れ咲く中を進む。登山道右側の崖っぴちを気にしながら歩き例年通り咲く白いイワカガミを見つけ観賞。その後不調のお客さんをリーダーが付き添って下る事にする。夜叉神まで送って戻ると言うリーダー。残念だが二人を見送り、お客さんの一人にラストをお願いし歩き出す。休憩のつもりで着いた杖立峠で雨具を着る事になってしまった。雨具を着ると止むんだよねなどと言いながら歩く。やがて焼け跡に着き昼食にした。数十年経ってもまだ焼け跡なんだと火災の恐ろしさを思う。雨は止み雨具を脱ぐとまた降り出し、道に残雪が薄く凍り付いた所も有ったが問題なく、苺平を後に南御室小屋に着くと雨の形跡は全く無い。小屋の方がファンクラブ一行にサービスと、お茶を出して下さり有難く頂く。冷たい水を水筒に満たして出発。樹林帯を抜けて大岩の間より幾筋もの沢に雪の残る北岳方面を眺め、砂払いを通過。予定通り薬師岳小屋へ着く。管理人さんにはリーダーが戻って来ることは伝わっていた。二階に案内されお落ち着いた所で芦安の民話の中から鳳凰に関する話を読み、座学とした。

管理人さんから、リーダーは山岳館まで行き、戻って12時に夜叉神登山口を登り始めたと伝えられた。5時には小屋に着くだろうと勝手に予想し雑談していると間もなく下でリーダーの声がした。お疲れ様でした。5時半から全員で夕食をとることが出来た。

翌朝、霧雨の中、例年より多いと言う小屋の上の残雪を踏んで頂上に着く。稜線は風が冷たく、休むことなく観音岳へ。雷鳥の糞を探すも見当たらず、キバナシャクナゲに癒され頂上で記念撮影。薬師岳でも写真を撮って小屋に戻ると、Bコースの方々が着いて居た。情報交換して、今晚此処へ泊まるBコースの方と別れて、砂払いへ登り、南御室小屋では雨なので小屋の中でお茶を頂き休憩。苺平へ登り、カイイワカガミの花をもう一度撮りたいと言うお客さんの声により白い花を眺める。下りは苦手と話していたお客さんとリーダーを後に夜叉神へ着くと、白雲荘の主人が迎えに来てくださり、一足先に白雲荘の湯船に浸かった。

戻ると丁度リーダーの車が駐車場に入ったところだった。3時には全員が山岳館に入り修了証を渡すことが出来た。



カイイワカガミ



クモマナズナ

芦安登山道整備作業

針葉樹会 前神直樹様

芦安から高谷山（芦安登山道の整備作業）

2019年5月25日（土） - 26日（日）

同行者 針葉樹会（岡田、小島、佐藤久、吉沢（正）、井草、佐藤活、加藤）

25日快晴

8:45甲府駅に集合するところ、予定していたが、高速の渋滞に巻き込まれて遅れるため我々はタクシーで芦安に向かう。芦安山岳館に辿り着くと、芦安ファンクラブの方々や富士通の方々は既に揃っていて、弁当を受け取ると早速夜叉神トンネル東口へ。



そこから、何度行っただろうか桧尾峠に向かう。砂防工事が行われている箇所までは傾斜も急で登山道の崩壊も進んでいる。若しも多くの登山者がこの道を辿ることになれば道も踏み固められて安定した登山道になるのだろうがなかなかそうもいかず、整備と崩壊の繰り返しになることが口惜しい。登山道の整備を行いながら進んでゆくと、傾斜が急なだけに、整備で止むを得ず起きる落石が下で整備作業を行っている人を直撃などという、あってはならない事故にならぬよう注意を払う。カモシカが居るといふ声を聞き、目を凝らすが残念ながらこの目で見ることが出来なかった。しかし下に転がる糞の多さから言えばこの山域には随分の数のカモシカあるいは日本鹿が生息していることが容易に想像される。この日雲一つ無い快晴でめちゃくちゃ暑くなると思いきや、心配していた汗ぐっしょり状態にはならず、やはり高度の所為なのかと安堵する。

桧尾峠に着くと昼食だが、ここに咲くイワカガミは通常はピンクだが白い花であるが故にカイ（甲斐）イワカガミと呼ぶと教わる。さてこの日はここから急登で高谷山に登る登山道整備だが、ここからは傾斜は急だが尾根道を辿るようになっているだけに崩壊している箇所もあまりなく、ところどころ小工事を行いながら高度を稼いでゆく。



確かに急な登りで、頂上がそこかと思うと次の登りになっているという具合でなかなか頂上には辿り着かないが、それでも大きな山でもなく一時間程で頂上着。ここから明瞭な登山道が北上していて夜叉神峠にのびているが、この道を見て遅まきながらこの辺りの地形図が腹落ちする結果となった。高谷山頂上では白い花を見つけて「シロヤシオ？」と訊けば、ムシカリ（オオカメノキ）との事で、本当に花の名前を覚えるのは大変だと思う。

帰りもあまり修復は必要ないが、これがあれば助かると思しきところにトラロープを張りながら桧尾峠に帰り着く。休んでいると高谷山から登山者2人が下りてくる。曰く「桧尾峠から下りる道が無ければ稜線を桃の木温泉まで下るつもりでしたが道があってほっとしました。ありがとうございます。」と涙の出るような言葉、こういう登山者がどんどん来てもらえれば整備のし甲斐もあろうかと思う。

26日晴れ

翌26日も空は晴れ上がるが、昨日同様多分汗でぐっしょりは無いだろう。8:30より昨年も参加した安全祈願祭があり出席。この付近の各山小屋のご主人も参列されていたが、なかなかしめやかな式で、山登りでは宿命ではないかと思う上り下りの事故が起きないようにと祈る。環境省や自治体の方々の挨拶からも登山道の保全本が大変なことを感じた。

祈願祭が終わると作業開始。この日は桧尾峠から中池へのトラバース道整備だが途中完全に崩壊しているところがあり、ここの補修は本当に作業になった。前日中にある程度まで補修作業は終わっており、それを引き継ぐ形で補修路を延伸させる。1時間近く作業を行うと崩壊地帯を巻いて行く道が完成し、以前のトラバース道に吸収されてゆく。一部手直ししながら進んでゆくとほどなく中池に到着。この中池は気持ちの良い所でちょっと足を延ばして稜線状のところ立つと木々の間からまだ雪をたっぶり付けた白根三山がみえる。安全祈願祭でも話が出ていたが、少しでもいいので視界が開けるくらいの最低限の伐採を認めてほしいと環境省の方への話があった。確かにその通りでこの視界が大きくなると絶景であることに違いない。そうすればよい宣伝にもなって多くの登山者が歩いてくれると期待すること切である。

中池で一休みすると、まさに補修を終えた道を桧尾峠に戻る。このような補修作業に参加していると、これまであまり意識してこなかった夜叉神峠から楡形山に続く山域が非常に興味深く思えてくる。そうした山道が整備されれば登山者は飛躍的に伸びるだろうと期待が膨らむ。



南アルプス開山祭

芦安ファンクラブ 清水毅

今年も又梅雨空の中、南アルプス市主催の「南アルプス開山祭」が広河原で開催された。心配された天気もどうにか持ち堪えたと言う状況で一安心。

南アルプス市長・警察署長の挨拶と来賓の祝辞に続き、芦安中学校の生徒による、賛歌（山の歌）合唱が披露された。「北岳の歌」「雪山賛歌」の澄んだ歌声が山々に届いた事だろう。

次に、「夜叉太鼓第1楽章」が演奏された。さすが30年以上の年期の入った演奏、いつ聞いても感動させられる。太鼓の音は人類の心を鼓舞する効果が絶大の様だ。我ファンクラブからも伊東、鈴木の両人がバチさばきを披露した。

来賓の方々の献花に続き、最後のクライマックス「蔓払い」を残すのみ。案内人は南アルプス市の斉藤諭市議が務め、従者は芦安ファンクラブの堀内・西村の両氏が控え、3人が昔の山案内人に扮して、おごそかかつ力強く蔓が払われた。参加された方全員が今年の登山の無事を祈って開山セレモニーを閉じた。

そのあとも、案内人は大人気、中学生や多くの人との記念写真で大賑わいだった。

名物の「甲斐が峰庵」のそばもふるまわれ、「行列ができる店」の味に大満足。お山よ、今年もよろしくお願ひします！



蕎麦の行列

新入会員紹介

創立20周年を迎えた芦安ファンクラブに、3人の新入会員が加わりました。

新たなメンバーの意気込みを掲載します！！

池谷 英仁 (いけや ひでひと) さん

芦安ファンクラブの皆様、初めまして。2019年4月から入会させていただきました池谷と申します。

芦安ファンクラブが20周年を迎えると共に、平成から令和に改元されるなど、時代の節目となった2019年に皆様のお仲間となることができたことを嬉しく思います。私は生まれも育ちも石和温泉で、北岳をはじめとした南アルプスでの山行を除けば、芦安とはこれまでほぼ無縁と言っても過言ではありません。私のような若輩者に何ができるか分かりませんが、この度の入会を機に、大好きな南アルプスの豊かな自然に「恩返し」していけたらと思っていますところ。私は小学3年生の頃からサッカーを始め、プロのサッカー選手を目指して大学に進学したものの、大学1年の時に大怪我をしてしまい、儚くも夢だったプロサッカー選手を諦めました。リハビリに心も入らず、自分の将来像を失っていた時、担当医からリハビリのために登山を勧められ、その時に初めて夜叉神峠を歩きました。

初めて歩いた夜叉神峠は、距離にしてたった1～2キロだったと思いますが、足裏に感じる登山道の起伏と、透き通った空気の中にほのかに匂う森の香りがビビッと脳を刺激し、峠から見える絶景を目にした時の爽快感は、一瞬にして「楽しい」という感情を呼び覚ましてくれたことを今でもはっきり覚えています。だからこそ、いつかは南アルプスに恩返しをしたい、そう考えていました。

そのような折、小林成正さんが入会を勧めてください、漠然と抱いていた恩返し意欲を發揮する機会を与えてくれました。

微力ではありますが、ファンクラブを通じ、芦安をはじめとした南アルプスの将来のために尽力していく所存であります。

登山を始めて約20年になり、今ではトレイルランニング・クライミング・アイスクライミングに夢中です。

皆様にご迷惑をおかけすることも多々あろうかと思いますが、ファンクラブの一員として、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

※PS：「池谷さん」と呼ばれることに慣れておらず、さん付けされると違和感を覚えます。気軽に「池ちゃん」と呼んでくだされば幸いです。



辻 純二 (つじ じゅんじ) さん

『熱意』『誠意』『創意』のそろった芦安ファンクラブへ創立20周年の節目に入会させていただいたことをうれしく思っています。日帰りでの全校登山「仙丈ヶ岳」下見が初めての登山。悲鳴をあげた膝。荒天で延期となった本番当日の様子はYBS放映場面を時折見えています。「瀬戸千段の滝」遊歩道整備事業に参加させていただいた折には、参加されている皆さんのパワフルな姿に圧倒されました。中島さん、鈴木さんのおかげで芦安地域の方と北岳にも登り、三角点を自分の眼で見てくることができました。その際、白根尾池小屋では高妻さんから中学生の職場体験でも利用してほしい旨を伺いました。初挑戦「輪かんじきづくり」では真摯な会員の皆様のおかげで卒業生に輪かんじきを贈ることができました。学校では桐材での展示ボードのバージョンアップを考えています。初日参加の「高山蝶パトロール」では大滝さんからAFCの活動の様子をうかがいながら、充実した楽しい一日を過ごすことができました。全校登山「鳳凰三山」下見では、富山さんから「辻山」目的で来たこともあることを知り、職場の同僚と近いうちに行きたいと思っています。



安田 祥子 (やすだ しょうこ) さん

初めまして。安田祥子と申します。音楽時々山歩きみたいな人です。この度憧れの芦安ファンクラブの仲間に入れさせていただきました。私にとって、芦安ファンクラブと出会い、興味を持った3つの理由があります。はじめに、仕事で生徒と一緒に、芦安ファンクラブの方々と一緒にする一つ一つの活動が得がたい経験として心に残っていて、楽しみの一つであるということ。一昨年、初めて北岳の下見に行かせていただいたときに、悪天候と筋肉疲労で限界を感じていた私でしたが、会員のお話しの豊かさに引き込まれ、学びながら登山を楽しめたこと。ファンクラブの活動の膨大さを知ったときには、自然を守るプロフェッショナルな方々の熱い思いに心動かされたということです。ただ山歩きに興味があるだけで恐れ多い気持ちでいっぱいですが、これからの活動を通して、豊かに楽しむ方法を教えていただきたいです。よろしくお願ひします。

